

# 西法寺本堂 現況調査報告

2012年11月実施

# 調査の趣旨

西法寺の現本堂は、明治19年(1886年)の俵屋大火によって前本堂が類焼した後、門信徒の御懇念により昭和2年(1927年)に再建されたものです。

その伽藍は、櫨の大木から削り出された丸柱と樹齢200年を超える杉の大木から切り出された角材を基礎とした大変贅沢で造形美あふれる様相となっております。また、内装も派手さはありませんが、厳かで格調高いものです。

今年は、再建から86年目を迎えますが、木造寺院建築としてはまだまだ新しく、立派な構造をしており、適切な処置を行えば、これから100年・200年と使用していけるものです。

これまでの二度の補修工事においては屋根面が中心であり、建物の全般的な調査はされてきませんでした。再建100年の節目を控え長期的な展望に立ち護持・修復の計画を策定すべく、今回の調査を実施しました。

# 調査会社について

この度の調査については、調査趣旨に則り、寺社建築について造形の深いという点を選定の基準とした。

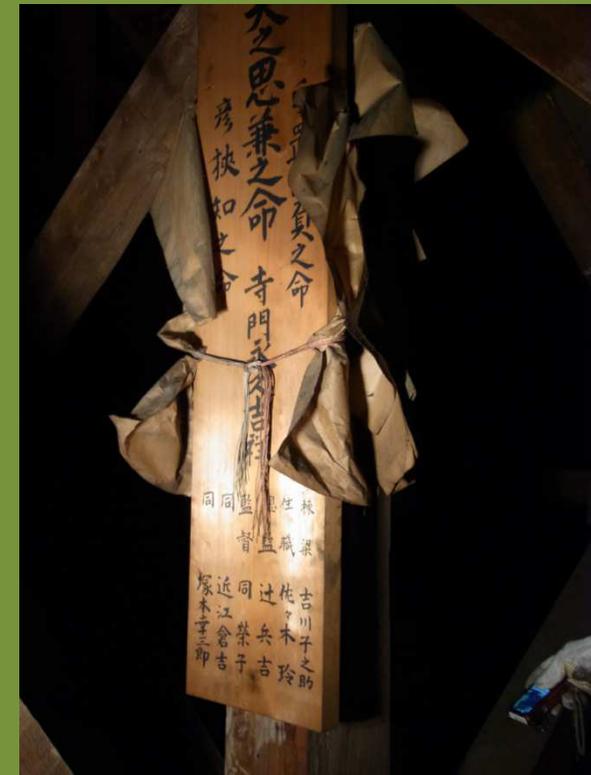
その結果、現在秋田市内において該当する企業はなく、県内にも数件の企業しかいないため選定に苦慮したが、県南の親戚寺院の修復を受け持った会社の営業が来寺されたため、事情を説明し調査協力いただいた。

また、同時に地元の建築事務所にも調査を依頼した。

## 調査請負会社

- 1 (株)山形技建(実績:東北500ヶ寺 修復/新築合計)
- 2 平野内設計事務所(実績:鱗勝院庫裏他)

# 調查結果



# 本堂後面軒先の傷み



大きく雨漏りしている箇所が見受けられます。

これは、経年や熱・強風などによる、銅板の変形と下地材（木羽）の腐食によるものです。野地板や垂木も水を含んでおり、対策が必要です。

# 野地板と垂木の傷み①



垂木や野地板に水がしみています。部分的に、野地板の致命的な腐食が見られます。このまま放置すると梁材までも腐食損傷することが予想されます。

## 野地板と垂木の傷み②



木羽と野地板・垂木に大きな腐食が見られます。雨漏りで水が滴っています。

木羽(コバ)



木羽葺き



# 折り上げ格天井の雨漏り



本堂内陣のご本尊  
(阿弥陀如来像)の  
上になります。

大きなシミの痕が  
ありますが、昨年4  
月の爆弾低気圧の  
後から雨漏りがみら  
れるようになりました。

外見からは分りづ  
らい場所でも、損傷  
が進行しています。

## 折り上げ格天井の雨漏り②



写真を撮って見ると、表面にも雨漏りの痕を見ることができました。

# その他、天井の雨漏り箇所



左上の天井板は、雨漏りにより、表面にカビが生えています。

右上は、常時雨漏りしているため大きく変色しています。

その他の箇所でも、雨漏りが確認できます。

# 本堂正面南側の雨漏り



本堂正面南側の軒先です。この場所は、昨年の爆弾低気圧により銅板が剥がれたため補修（保険で対応）しましたが、雨漏りは完全には止まっていなかったようです。場当たりの補修では対応が困難な状況です。

# 本堂正面南側の修復風景



前頁の被害箇所  
の修復途中の写真  
(2012年6月)です。  
このように広範囲  
に屋根の銅板が飛  
散するのは、下地が  
大きく損傷している  
ことに大きな原因が  
あるようです。

# 本堂正面北側の雨漏り



本堂正面北側の軒先です。南側と同様に雨漏りが見られます。こちらの方がまだ状況は良いようです。

# 本堂正面向拝の雨漏り



本堂正面の向拝  
(階段部の上)の雨  
漏り。雨漏りにより飾  
り彫りの一部に変色  
が見られます。

これ以上に損傷が  
進むと修復が難しく  
なります。

# 本堂屋根の問題箇所①



銅板の一部で表面から直接釘で止めている箇所が見られました。通常このような処置はしないとのこと。コーキング材で補修をしていますが、数年しか効果が持続しないようです。

雨漏りの一因となっているようです。

## 本堂屋根の問題箇所②



箕甲部分の上ハゼと下ハゼがうまく重なりあっていません。これも雨漏りの原因の一つです。

これは、前頁の処置も含めて、前回の修復時(昭和54年)の職人は社寺専門でなかったことも影響しているのかもしれませんが。

## 本堂屋根の問題箇所③



このように重なり部分に空間出来ると風雨が厳しい場合に、水がこの部分を登り雨漏りが起こります。

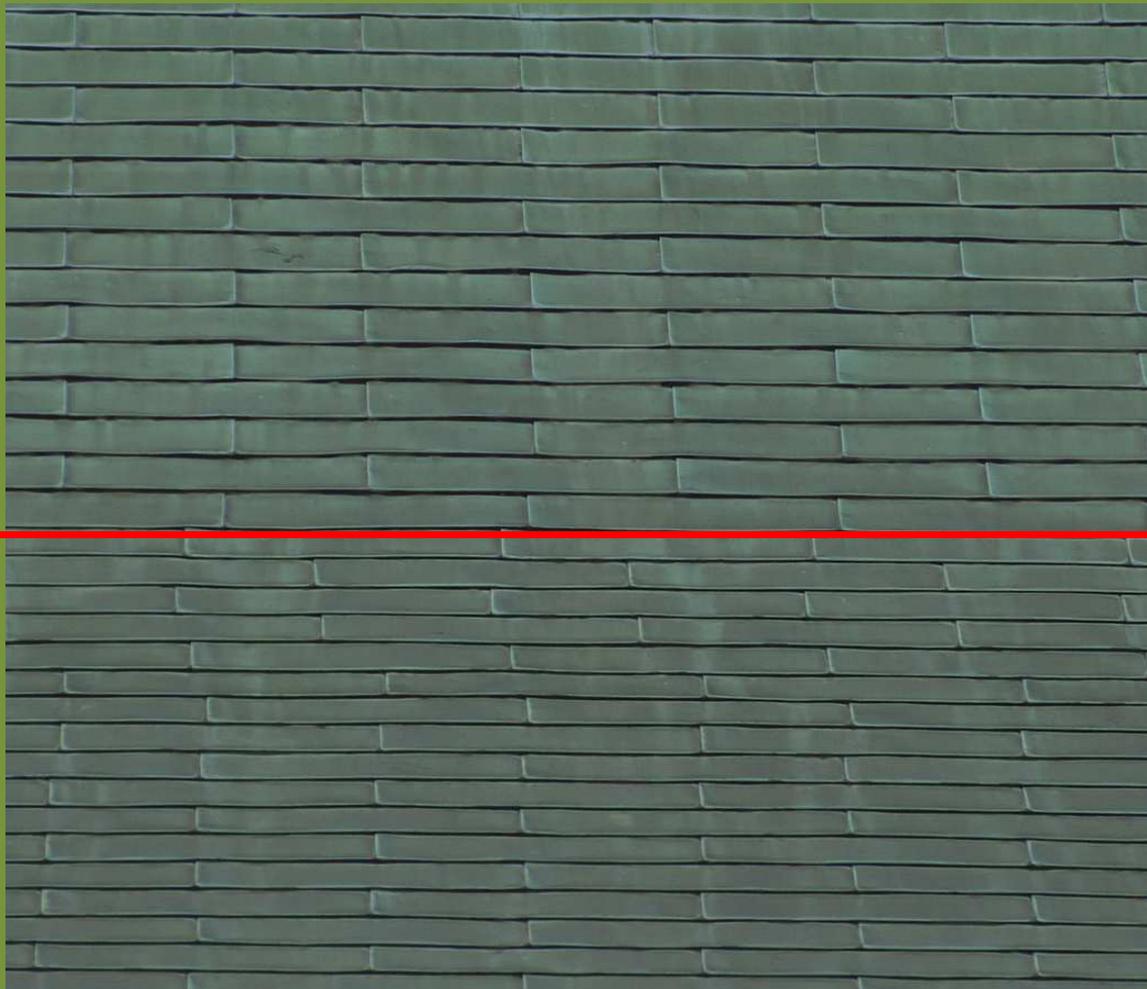
## 本堂屋根の問題箇所④



一文字葺きのつじ  
つまが合わずに、波  
打っています。

これも雨漏りの原  
因の一つです。

# 本堂屋根の問題箇所⑤



赤い線より上の部分が、再建時のままの一字葺きです。

赤い線より下の部分が、昭和54年に葺き替えられた部分です。

施工技術に大きな差が見られます。

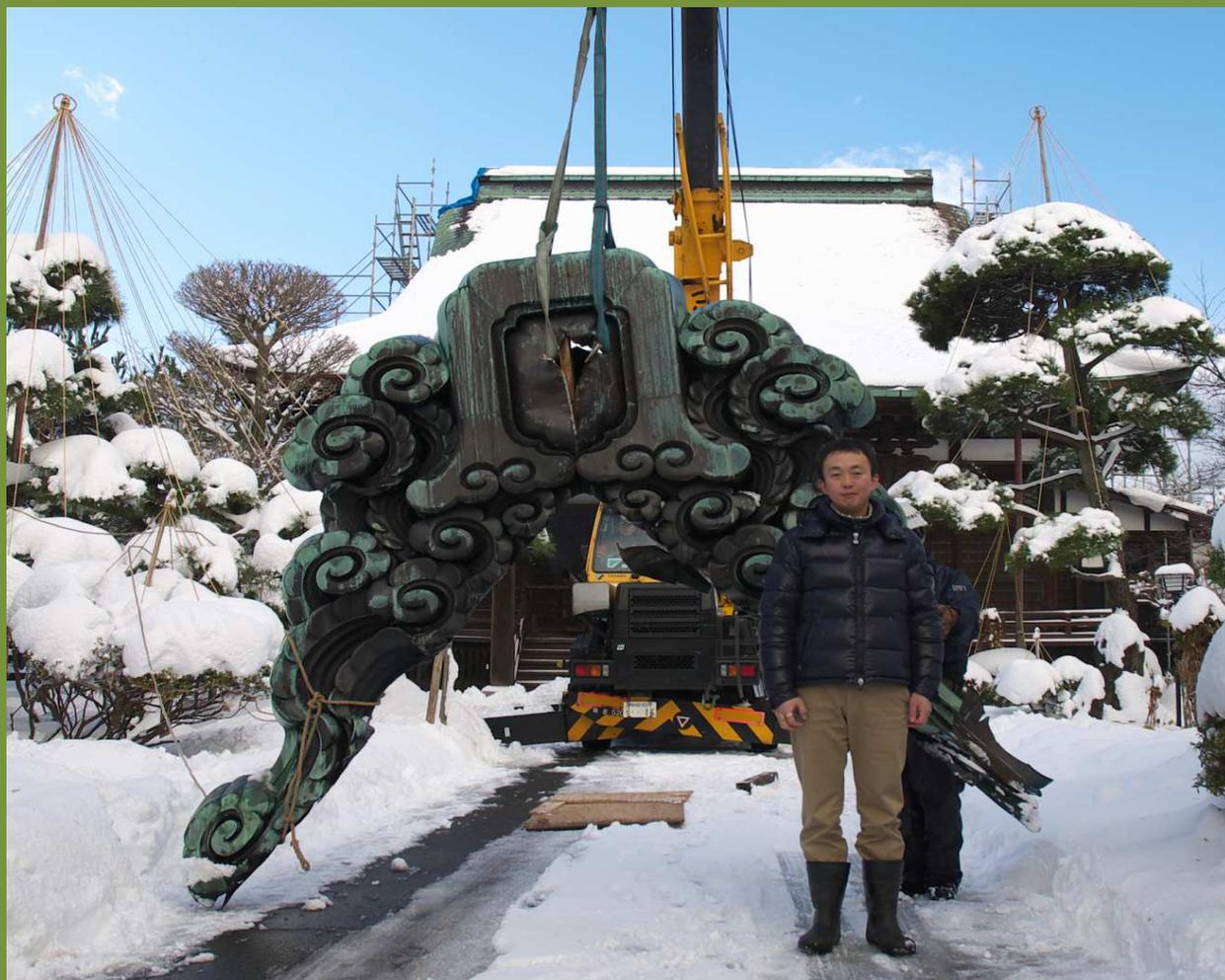
# 鬼飾りの損傷①



昨年11月の突風によって、鬼飾りの一部が損傷し落下しました。

修理は保険で対応出来ることになりましたが、このことから屋根面の広範囲で損傷が進んでいることが想像されます。

## 鬼飾りの損傷②



損傷した鬼飾りは、昨年12月に修理のため取り外しました。下ろしてみると非常に巨大なもので、装飾もとても見事なものです。

# 結 論

## 1 屋根面について

経年の風雨や熱により腐食が進んでおり、使用限界にきている。

## 2 屋根裏について

雨漏りの痕が広範囲で見られ、野地板や垂木の一部には深刻な腐食が見られる。

## 3 内・外周について

経年の傷みにより、壁や戸・窓に隙間ができ、風や雨が吹き込む場所が多くみられる。また、二度の地震の影響もあり壁が落ちかけている箇所がある。

## 4 まとめ

小屋組内部(天井裏)の広範囲に及ぶ雨漏りの痕からも今後予想以上の早さで腐食が進行することが予測され、梁など構造部にまで腐食が進むと改修経費が大幅に増大するため、早急且つ効果的な修繕が必要である。

## 5 その他

昭和48年に建てられた庫裏と集会所についても、改修が必要な時期にきている。また、駐車場や境内全般の排水についても改善の余地がある。

# その他の破損箇所



本堂の木戸や壁についても、経年の劣化により、隙間風が吹き込む状態です。

左下の木戸は、壁が劣化しているため開けることができません。

右下の隙間からは雪や雨が吹き込みます。

# その他の破損箇所



左上の本堂窓枠は、腐食しており開閉ができません。

右上の唐戸は応急処置をしたままになっています。

下二枚は、東日本大震災における白壁の破損状況です。写真はありませんが、屋根裏の白壁では完全に崩落している箇所もあります。

# 今後の修復に向けた留意点

- 1 本堂の現状から、早急且つ効果的な修繕をしなければ、今後、改修経費が大幅に増大することが予想される。
- 2 本堂の現状から早急な修復計画を策定する必要がある。
- 3 今後数年で、消費税率が5%から10%に引き上げられる。
- 4 今後、東日本大震災の家屋等の復興事業が本格化し、資材の価格が急騰する恐れがある。実際に資材の入手にも影響が出始めている。

以上の点も踏まえた総代会・護持会で取りまとめた計画案を以下に記す。

# 西法寺御修復事業基本計画(案)

- 1 本堂の現状と社会情勢に鑑みて、2013年（平成25年）内に行う。
- 2 募財期間は、5年以内とする。
- 3 経費については、当初御修復基金と銀行からの借入金によって賄い、5年以内に完済する。
- 4 本事業は、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念事業と位置付ける。
- 5 本事業に剰余金が生じた場合は、護持会基金に繰り入れ保管する。
- 6 進捗状況については、寺報・ホームページ等で随時報告する。